

論文の要旨

論文題目 読みの目標が読解過程と理解に与える影響
—読解指導の応用に向けて—
氏名 封 静宜
学位 博士（文学）
授与年月日 平成25年6月28日

日本語学習者の日本語能力を測定する大規模試験では、「読解」が試験科目として取り上げられている。このことから、高等教育機関で日本語を用いて勉学に対応する能力として「読解」は不可欠な能力の一つであると言える。読解力を高めるには、読み取った内容を「伝達的に読み」、つまり、読んで理解した内容を他者と共有、確認、議論し、その過程で自らの理解を深めようとする読解指導法と、文章情報を鵜呑みではなく、慎重に検討する「批判的に読み」、つまり、はじめの自分の素朴な意見が、他の意見を批判的に検討することを通じてより高められるという読解指導法が提案されている。しかしながら、具体的にどのような状況設定を行えば期待した読解が行われるのか、そして、学習者はどのように読み進め、その結果どのような理解を達成しているのか明らかにされていない。本研究では、「読解力」を育成する方法を探求する第一歩として「伝達」と「批判」という目標設定に繋がる課題を状況設定として与え、その状況において、日本語を第二言語として学習する読み手が、どのように読み進めていくか、そして、どのような理解を構築するかを質的に分析する。

本研究は7章からなる。

第1章では、高等教育機関で日本語を用いて勉学を進めようとする留学生にとって重要な役割を果たす読解力を育成するためにはどのような状況設定が必要かの研究が求められていること、特に、「伝達」や「批判」という状況を設定した場合に、どのような読解過程が生起し、その結果、どのような理解が構築されるかを質的に検証することが必要であると提言した。その上で、本研究の目的を示している。

第2章では、認知処理を考える際の枠組みとして、認知過程およびメタ認知過程の構成要素と要素間の関係を概観する。その上で、今までに提案されてきた2つの読解モデルを検討し、その検討に基づいて本研究の枠組みとなる読解モデルを提案する。さらに、第二言語における読解に関する先行研究を検討し、本研究の研究課題を示す。

第3章では、本研究の研究方法を説明する。本研究は読解過程を重視するた

め、発話思考法、再生刺激法、事後インタビューから読解過程のデータを収集する。そして、それを数量化したデータではなく、行動の連鎖という視点から分析を行う。

第4章では、「伝達目標」と「批判目標」という目標の差によって、読解力中級の読み手の読解過程におけるメタ認知行動の連鎖、認知行動の連鎖、理解はどのような影響を受けるかを検証した。分析の結果、「伝達目標」では、文章読みの段階では部分的な理解を目的とした認知行動が観察され、語、句、または文単位の命題レベルの理解になっていることがわかった。さらに作文前の段階になると、文章の全体的な理解を目的とした認知行動を示し、テキストベースを達成していることが示された。一方、「批判目標」では、文章読みの段階では理解の矛盾、自分と作者の主張のズレを文章の文脈と自身の知識に統合しようとする認知行動を示し、状況モデルの理解を構築している。そして、作文前の段階になると、文章読みの段階から得た理解を更に自身の知識で再構築して、より深い状況モデルを達成していることが示された。

第5章では、「伝達目標」と「批判目標」という目標の差によって、読解力上級の読み手の読解過程におけるメタ認知行動の連鎖、認知行動の連鎖、理解はどのような影響を受けるかを検証した。分析の結果、「伝達目標」の文章読みの段階では、全体の意味を理解するための要点の把握のための認知活動を示し、テキストベースの理解を達成していること、作文前の段階では、文章読みの段階で理解した情報の取捨選択をしているだけで、文章読みの段階の理解を維持していることが示された。一方、「批判目標」では、文章読みの段階では、作者の主張を特定しながら、タイトルを取り巻くキーワードを文脈と自身の知識により整理し、その具体的な内容を把握しているだけではなく、それらを有機的に結びつけた結果、文脈と自身の知識による文章内容を整理し、状況モデルを達成していることがわかった。さらに、作文前の段階では、反論するために、自分の知識により反対する根拠を示し、自分の主張を示す認知活動が観察される。このように、自身の知識による理解を再構築し、文章内容を越えた状況モデルを達成していることが示された。

第6章では、第4章、第5章の結果に基づいて、同じ目標に繋がる課題を課せられたときに、読解力に差がある読み手は、メタ認知行動と認知行動の連鎖にどのような差が現れるかを先行研究の結果と比較し考察した。

第7章では、第4章と第5章の結果、及び第6章の考察から以下の結果が得られた。(1)読解力に関わらず与える課題によって設定される目標は異なる(2)目標設定が異なることによって読解過程で生起する認知行動、メタ認知行動は異なる(3)読解過程で生起する認知行動、メタ認知行動は異なることによって、構築される理解の水準は異なる(4)リアリティのある課題を設定するこ

とによって、読解力中級の読み手であっても、読解力が高い読み手と同様の認知行動、メタ認知行動が読解過程で促進される。それを基にして、教育への示唆を論じる。